

テレビ新広島文化大学講演

農業・環境シリーズ第18話 2009年11月10日

「畜産科学からみえたわが国の食料・環境・家畜福祉などの 話題と課題」

山本 禎紀

講義の内容：前回の講義（平和都市・広島から農業や環境問題を考える）では、農業の役割をとりあげ、この内容が非農業者である多くの市民に、身近に感じられなくなっている問題と、わが国の農業が、もはや農業者だけでは守れない深刻な状況にあることを提示し、課題を明らかにし問題を解消するには、市民の理解と行動がカギになることを話した。これらを受けて、今回は、私が1960年から関わった畜産学から、酪農・乳、養豚・肉、養鶏・卵生産をとりあげ、家畜の特徴と特性、畜産物の良質な栄養源、機能性食品としての重要性、農業生態系における家畜の役割にふれ、あわせて、広島県での驚くべき畜産業の移り変わり（1960年に比べ現在の酪農、養豚、養鶏戸数は、それぞれ、いずれも、1/30、1/100、1/2,000以下になっている）と、これに関連して生じている問題や課題を提示した。参考として、私が体験できた、半乾燥地帯のケニア、湿潤温暖な四川省雅安、および、熱帯のパプアニューギニア・ラバウル近郊の畜産を紹介し、考えを深めてもらった。